

「はむらの道徳科授業指針」教師の視点⑤

道徳的な成長を認め、褒め、励ます

人間としてのよりよい生き方を求めて自己を見つめ、考えを深める道徳の時間に、絶対評価や相対評価はなじみません。他者との比較ではなく、子ども一人ひとりの道徳の時間の学習を通じた進歩の状況を積極的に受け止め、褒め励ます個人内評価を行います。

学期や学年にわたって子どもの成長の過程を見守り、努力を認めたり、励ましたりするには、教師が子どもの「学びの履歴」を有しておく必要があります。そのため、ある学校では道徳の時間で使用したワークシート等を、「道徳ファイル」として時系列に綴じ込んでいます。国や東京都が作成した教材のうち、書き込み欄のあるものについては、直接教材に各自の考えを書き込まず、プリントやルーズリーフに記入させて「道徳ファイル」に収めることを全校で実施しています。



指導上のポイントの一つに、教師が毎時間回収したワークシート等の記述内容を確認し、その子どもの内に育まれているよい点などを把握してアンダーラインを引いたりコメントを付したりしておくことがあります。子どもは教師の記述を通して、自分のよい点や進歩の状況に気付き、学習意欲を高めていきます。一方教師は、学期ごとの子どもの成長ぶりをまとめやすくなります。

見出すもの

楽天家は、困難の中にチャンスを見出す。
悲観論者は、チャンスの中に困難を見る。

政治家 ウィンストン・チャーチル

出典：「賢人たちに学ぶ 自分を超越る言葉」本田季伸著（かんき出版）

※ 教育に当たる私たちは、楽天家でありたいものです。